



憩いの場 千葉公園



演習用橋脚

大正7年(1918年)鉄道連隊の改編により鉄道第一連隊の演習用の作業場として使われていた。



演習用トンネル

コンクリート製の橋脚やドームは当時の架橋演習やトンネル工事演習に使われていた。



忠霊塔

日清戦争以降の戦没者を追悼するとともに、恒久平和を祈念して県が建設し管理している。



荒木山

満州事変で邦人救出の際に活躍した荒木大尉の銅像を建設したことが名前の由来。



財務局引受の経緯

昭和20年11月30日付で東部軍管区経理部長より引き受けた旧軍財産

千葉公園の変遷

1908年、旧陸軍が鉄道連隊(のちに鉄道第一連隊に改称)を編成した。当時は沼地同然の土地であった千葉公園敷地に演習作業場を設け、鉄道の新設や破壊練習の場として使用した。

※ 公園内には、今も橋脚やコンクリートのトンネル等の戦争遺跡が残されている(「千葉公園マップ」写真①、②)

戦後、復興計画の一環で演習作業場は総合公園として使用されることが決定した。それに伴い、演習作業場及び旧陸軍墓地内にある財務省所管の敷地も、昭和21年より順次売払・貸付が行われた。

現在は「千葉JPFドーム」、「YohaSアリーナ～本能に、感動を。～」等が整備され、市民の憩いの場となっている。

年表

年月日	主な沿革
明治41年(1908)	旧陸軍が鉄道連隊(のちに鉄道第一連隊)を編成
昭和21年(1946)	千葉市に「野球場敷地、忠霊塔付近の敷地」を無償貸付開始
昭和38年(1963)	千葉市に「競輪場敷地」を時価貸付開始
昭和45年(1970)	千葉県に「忠霊塔敷地」を無償貸付開始
平成30年(2018)	千葉市に「競輪場敷地」を売払(一現在は「千葉JPFドーム」、「YohaSアリーナ～本能に、感動を。～」が整備)

千葉公園の現在と過去

